

わが街 Watching



▲「これまでの取り組みをどう2020年以降に結び付けるかが重要」と話す丸川大臣

ドイツ選手団の事前キャンプ誘致を目指して 丸川五輪・パラリンピック大臣との意見交換会

1月12日、福岡市内のホテルで、丸川珠代五輪・パラリンピック大臣と、2020年東京五輪・パラリンピックで海外の代表チームの事前合宿や国際交流を受け入れる「ホストタウン」の登録自治体との意見交換会が行われ、二場公人市長と市国際交流員のリア・ベアクスさんが出席しました。

交換会には、本市を含む九州5県12自治体の首長などが出席。二場市長は、本市が事前キャンプ誘致などを目指しているドイツとの交流実績や誘致活動の取り組みなどを紹介し「昨年11月にはドイツを訪問し、関係団体と話をすることができ、かなりの手ごたえを感じている。スポーツ面だけでなく、さまざまな分野での交流を進めたい」と話しました。

華麗なる勝利。惜しまれながらの引退 キックボクシングチャンピオン有終の美

12月16日、本市在住の格闘家であるCMG(シーエムジー)千晴ジム(伊加利)の萬田千晴会長が市役所を訪れ、キックボクシング大会のKING OF STRIKERS ROUND 22(10月23日福岡市)でスーパーフライ級のチャンピオンとなった功績を二場公人市長に報告しました。

この大会は、17歳でプロボクサーとなり、21歳でキックボクシングに転向した萬田さんが、15年間の戦いに終止符を打つ引退試合。「日本一強い相手を倒して辞める」との決意が実り、熱戦の最後には入魂のひじ打ちが相手の額に炸裂。2ラウンドTKO勝ちで見事王座に輝いた萬田さんは「悔いはない。今後は世界に羽ばたく選手を育てたい」と話しました。



▲チャンピオンベルトを抱え、堂々とした姿の萬田さん

絵本の世界へようこそ

いいから いいから～長谷川義史の世界展～

1月7日～2月5日、田川市美術館で絵本作家の長谷川義史さんの作品展「いいから いいから～長谷川義史の世界展」が開催され、親子連れなど約4,300人が訪れました。

会場には、絵本原画やスケッチなど約150点のほか、絵本に登場するキャラクターの福笑いや長谷川さんが製作した壁新聞なども展示。また、初日に行われた絵本ライブでは、長谷川さんが自らの絵本の読み聞かせなどを行うと、訪れた子どもたちは、夢の世界に引き込まれていました。

長谷川さんの大ファンで、宗像市から訪れた岩竹仁くん(小学2年生)は「いつも本の中で見る絵が大きく展示されていて格好よかった。将来は画家になりたい」と話しました。



▲絵本の原画を間近で見つめる観覧者



▲久次会長(右)から寄付金を手渡された吉柳啓二教育長

文化、ボランティアの振興に役立てて 国際ソロプチミスト田川が寄付

12月19日、国際ソロプチミスト田川(久次澄子会長)が、市教育委員会と福岡県立大学社会貢献・ボランティア支援センターに、社会奉仕事業の一環としてチャリティーバザーなどの収益金の一部を図書カードなどとして寄付しました。

この寄付は、市教育委員会には平成2年度から28回目、県立大学には平成24年度から5回目。市教育委員会では、この寄付金により、これまで書籍や図鑑など705冊を購入し、それらの図書を市立図書館に設置した「国際ソロプチミスト田川文庫」は、主に子どもたちに親しまれています。

久次会長は「子どもたちのために、たくさんいい本を購入してください」と話しました。

シリーズ 田川市立病院だより

「HCU(ハイケアユニット)を開設」



田川市立病院では、平成29年2月1日から、高度急性期医療に対応するため、HCU(ハイケアユニット)を開設しました。専任医師1人、他病棟7対1看護(患者さん7人に対し看護師1人)と異なり、4対1看護(患者さん4人に対し看護師1人)の体制です。

HCUでは、高度の医療機器が整備され、専任の医師・看護師などにより、緊急入院や手術後の重症患者さんなど、高度な治療や看護を必要とする患者さんに対して、より迅速で集中的な医療を提供しています。

●くわしい情報はHPで検索

田川市立病院 検索
クリック

病院ボランティア募集! ●問い合わせ 田川市立病院 ☎44-2100

ひびけ歌声! あなたのもとへ

第九を歌うバイinたがわ

12月23日、田川文化センターで「第九を歌うバイinたがわ」が行われ、慶興保育園(栄町)や緑保育園(川崎町)の園児たちや、田川市郡の住民で構成する「たがわで第九を歌うバイ合唱団」などが、ベートーヴェンの交響曲第九番「歓喜の歌」を熱唱し、訪れた約500人に披露しました。

今回で11回目であるこの催しは、9回目までは川崎町で行われていましたが、昨年からは田川市郡全域に活動を広げようと市内で開催されています。この日は、市芸術教育アドバイザーの木村厚太郎さんがタクトを振るい、第1部では、同合唱団が炭坑節などを合唱。第2部で保育園児とともに「歓喜の歌」を披露すると、会場から大きな拍手が送られました。



▲保育園児たちと一緒に、ドイツ語で「歓喜の歌」を歌い上げる合唱団